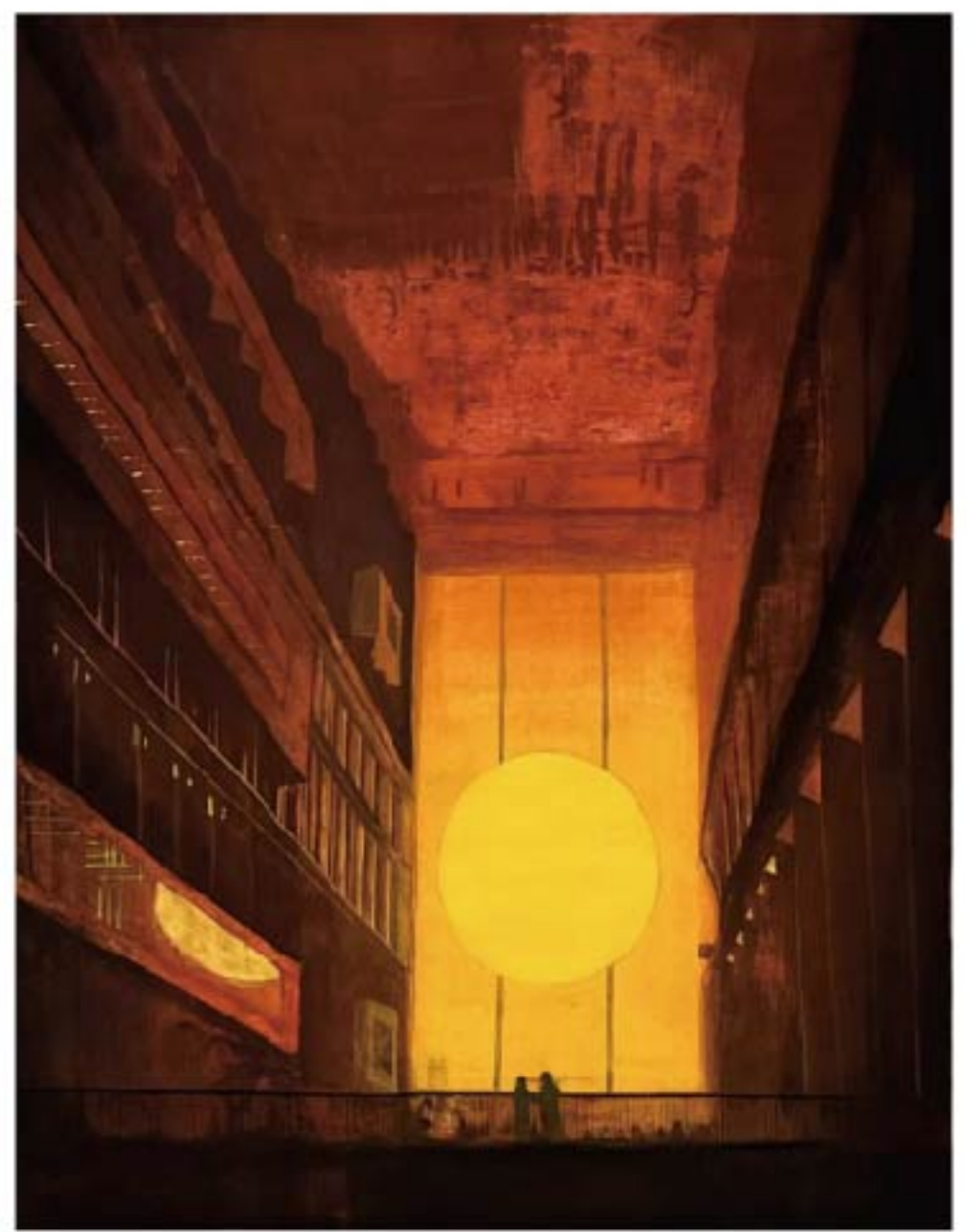


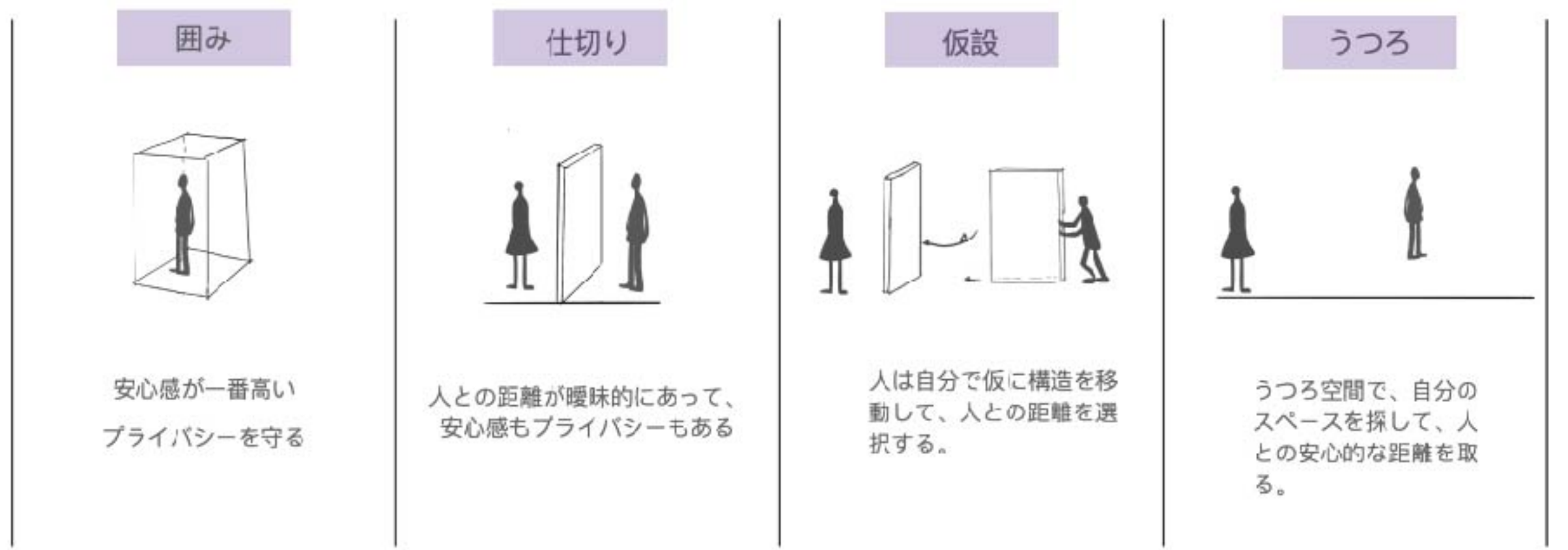
陳 鈺 CHEN Yu



安心感とプライバシーの程度

高い

低い



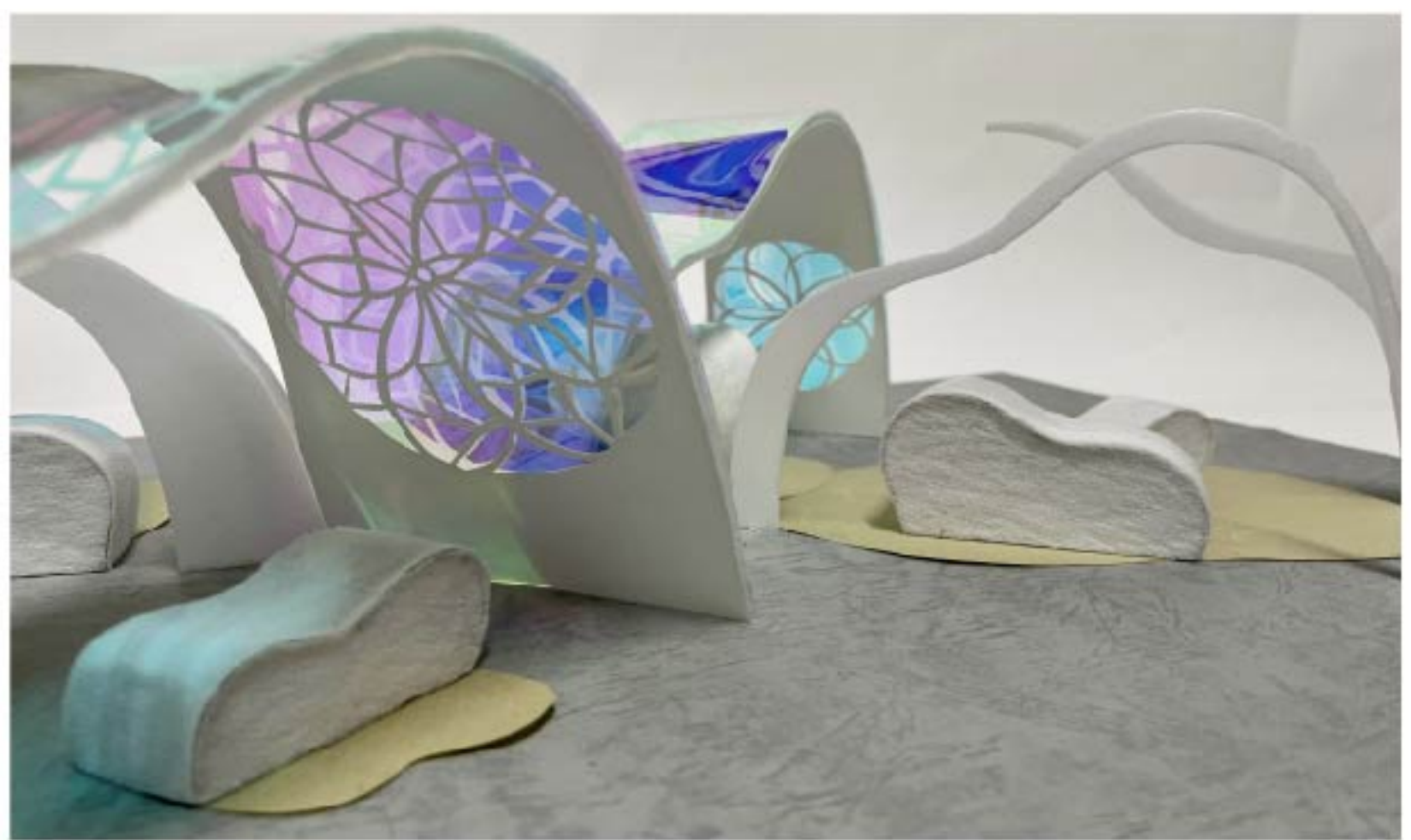
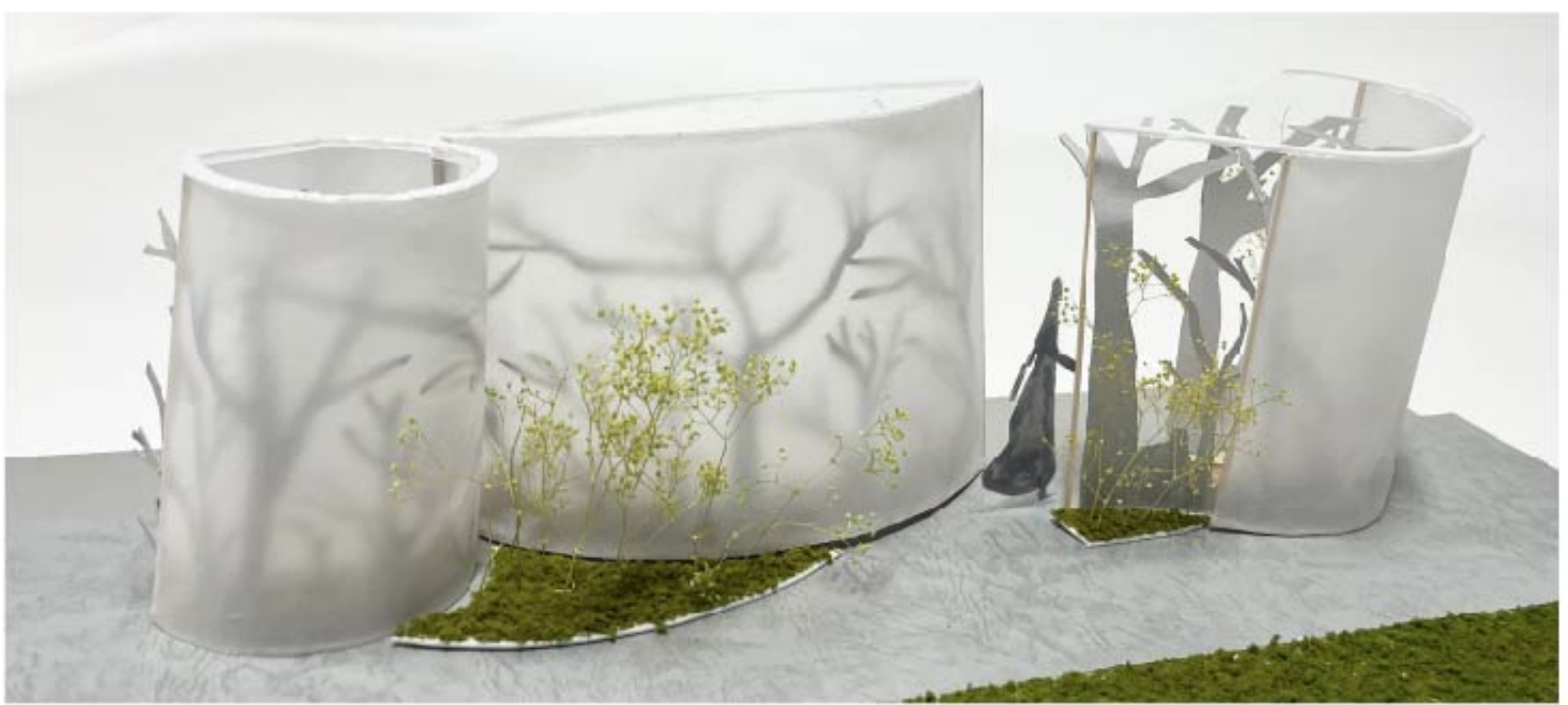
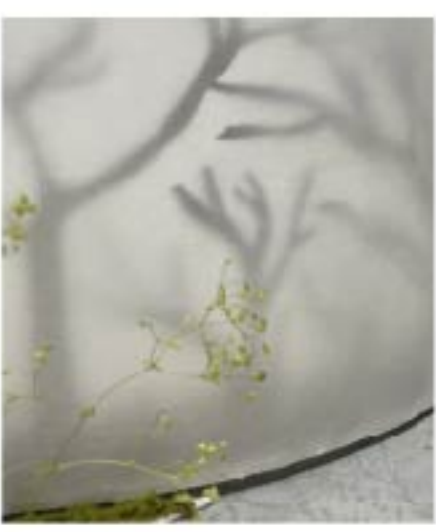
空間の特徴

閉鎖

オープン

自然に託す

スチレンボード、バルサ材、模型



「自然に託す」

——日本の伝統空間の構造を生かした瞑想空間

ストレスや心理負担が多い現代、自分の心に戻すのは大切なことである。自然は心を落ち着かせる良い影響を与えるが、日常生活では、自然と接触する機会が少ない。今回の計画はバス停、公園、図書館、学校の四つの身近な場所を選んで、自然の樹木、雲、丘、花の四つの要素をモチーフとする。時間を問わずに、心を落ち着かせ、自分ときちんと対話することを目指す瞑想空間を提案する。

バス停【木隠の下で安定する】

現在、一般的なバス停は単にバスに関する提示板とベンチを備える場合が多い。しかし、バスを待つ人々にとって、安心感を与え、悪天候でも居心地よい個人的なスペースが必要である。自然の樹林はどの季節でも、心を落ち着かせる良い効果があるので、今回計画するバス停は、樹林をモチーフとし、自然な要素とともに良い雰囲気表現している。バスを待つ人々に安心感を与え、暫く日常生活から離れて、自分に戻って瞑想する。

公園【雲の床に夢を見る】

世界のどこでも、公園がたくさんある。特に日本は、時間帯によって利用する人が様々で、利用頻度が高い。今の公園は、単に遊具とベンチがあるだけの場合が多い。しかし、公園は人々にとって、暫くの間ストレスや負担が多い日常生活から離れて、夢を見る場所だと思う。だからこそ、自然からの柔らかい雲の形をモチーフとし、瞑想空間を計画した。陽光を浴びながら夢を見る。気持ちが向上とするであろう。

図書館【丘陵で心を空にする】

現在の図書館は本を自由に探すことを目指して、簡単な本棚とテーブル、椅子を備える場合が多い。閉鎖的な室内空間の中で、圧迫感を減少するために、自然の丘の形を原形として、本棚と瞑想空間を一体化し、森のような雰囲気をつくった。ここで、時間を止めて、リラックスして自分の心ときちんと対話する。

学校【花から咲く自己】

現在の学校は集団生活を強調されている。一方で、学生にとって、学校の中で自己スペースを探し、自己の時間を留めることが必要である。花は数々の蕾が次々に花が咲く過程が個人と集団の関係性と似ていると考える。自然の花を原形として、学校のオープンスペースの中で、曖昧に囲まれた瞑想空間を創って、学生たちが暫くの間重い学業を忘れ、集団から離れて、自己成長に注目して瞑想する。